

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	美術		
英文授業科目名	Arts		
開講年度	2009年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	古屋 祐子		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
責任教員・島内景二 < jinbunyoumu@bunka.uec.ac.jp >	

<b>【主題および達成目標】</b>
日本の美術作品に関する基礎的な知識を修得すると共に、各時代の作品の鑑賞を通じて日本人の美に対する感覚や、今日まで継承されてきた伝統を捉えることを目的とする。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
無し

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
無し

<b>【教科書等】</b>
[教科書] 田中日佐夫監修『すぐわかる 日本の美術(改訂版)』(東京美術) また、図版等の資料プリントを毎時間配布する。 [参考書] 辻惟雄著『日本美術の歴史』(東京大学出版会) その他の参考書については初回の講義の折に提示する。

## 電気通信大学 平成21年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

縄文時代から江戸時代までの日本の美術作品の特徴を見ていく。教科書及び資料プリントを基に講義をした後、スライドを用いて作品を鑑賞し理解を深める。各回の講義予定は以下の通り。

第 1 回 縄文・弥生・古墳時代 ... 原始の美術

第 2 回 飛鳥時代 ... 仏教美術の伝来

第 3～4 回 奈良時代 ... 古典様式の完成

第 5～7 回 平安時代 ... 唐風から和風へ

第 8 回 鎌倉時代 ... 写実の美

第 9～10 回 室町～桃山時代 ... 武家の美術

第 11～13 回 江戸時代 ... 町人主体の美術

### 【授業時間外の学習（予習・復習等）】

第 2 回以降の予習に関しては、その前週の授業の最後に知らせるので、それに従って教科書に目を通しておくこと。

復習に関しては、「評価基準」に挙げたように、先ず基礎的な用語の確認。次に配布プリントの図版をもとに作品の造形上の特徴（これを「様式」という）を時代の流れに位置づけて捉えられるようにしておく。また興味があれば、各時代の社会のあり方と美術・文化の関係について考察しておくことにより理解が深まる。

そして一度は自分の目で実際の作品を見ること。それにより、実際の作品と、授業中に映写するスライドや書籍の図版等のカメラのレンズを通して視覚化された作品の姿との間には自ずと違いがあり、本物を見ることが如何に大切か理解できる。と言っても授業や書籍等で作品を勉強しておかないと、本物をただ漫然と見ても理解は深まらない。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

[ 評価方法 ] レポート(30%)、期末試験(70%)により評価する。

但し、出席 7 回以上をレポート提出及び期末受験の条件とする。

[ 評価基準 ] レポート：課題に従った内容となっていること。

期末試験：基礎的な用語が理解できていること、作品の造形上の特徴をつかんでいること。

### 【オフィスアワー：授業相談】

授業終了時から30分程度。

### 【学生へのメッセージ】

西洋化した生活を送る現代において、日本の、しかも近代以前の美術は本当に遠い存在になってしまった。しかしそれらは、西洋ではない、中国でもない、日本のものの捉え方や感じ方、何を善しとしたのかという価値の基準などを考える契機を我々に与えてくれる。

電気通信大学 平成21年度シラバス

【その他】
無し。